平成２５年度研究成果報告書《平成 25 年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	4	都道府県・指定都市名	宮城県
ふりがな **学校名**（生徒数）	みやぎけんみやぎのこうとうがっこう 宮城県宮城野高等学校（８２７名）		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：宮城県仙台市宮城野区田子二丁目３６番１号
電話番号：０２２－２５４－７２１１
研究内容等を掲載しているウェブサイトの URL：http://www.miyagino.myswan.ne.jp

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：４高等学校
○研究対象教科等：
○研究のキーワード：表現と鑑賞の関連付け，主体的な学び，気付き，指導と評価の一体化
○研究成果のポイント： 生徒が主体的に感性を働かせながら主題を生成し，対象を見つめたり鑑賞したりすることで新しい意味や価値がつくりだせるような手立てについて。生徒が題材の目標を実現できるように指導と評価が一体化した授業展開の在り方について。

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

生徒の学習意欲を喚起することを通して，感性を磨き，表現及び鑑賞の創造的な能力を育成する指導の工夫・改善

（２）研究主題設定の理由

美術の学習を通して育成すべき資質や能力は,生徒の美術に対する学習意欲が喚起され,動機が十分に高まっている状態で，主体的に取り組ませることにより伸長が図られると考えられる。本研究では，美術専門学科を有する本校の特性を生かし，美術を専門的に学習する過程において，「表現」と「鑑賞」を効果的に結びつけた指導の実践により，生徒の内発的動機を高め,学習に取り組むことで表現及び鑑賞の創造的な能力を育成するための,指導の工夫・改善を目指すものである。

（３）研究体制

総括：校長　総務：教頭・教務部　調査研究：美術科教諭５名

（４）１年間の主な取組の経過

平成25年度	○生徒の意識調査 ○表現と鑑賞の相互の効果的な関連を意図した指導計画及び指導方法の検討 ○指導と評価の一体化を目指した授業づくりについての検討 ○生徒の主体的な学びを促す題材等の検討及び試行 ○各分野における，研究内容に即した授業実践 ○授業公開の実施 ○評価規準を効果的に用いた評価の実践 ○年間を通した研究成果のまとめ

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

今回の研究は，専門学科である美術科一年次生で展開している「構成」の授業で行った。本校美術科においては，洋画・日本画・彫刻・ヴィジュアルデザイン・クラフトデザインの専任教員がおり，５分野に特化した「構成」を展開している。

○表現と鑑賞の関連

・制作前に過去の生徒作品を鑑賞したり，制作途中で相互鑑賞したりすることで表現意欲を喚起する工夫を行った。
・生成した主題を発表し合い，他者の思いや考えを聞くことで自分と他者の考えとの比較

を行い，他者の思いや考えから自分の考えや表現を広げていく工夫を行った。
○主題生成能力の向上
・ワークシートを活用し主体的に思考できる工夫と，クロッキー帳やスケッチブックを常に携帯させ，主体的にアイデアスケッチができる環境づくりを行った。
・発想や構想の際には言語活動を活用し，単語や文章などで考えさせ，付箋紙を活用し効果的に主題を生成させる工夫を行った。
○感性を働かせる取り組みから気付きを促す
・視覚や触覚などの感覚でしっかりと対象を捉えられるような工夫をし，実物を見つめたり観察したりして捉えるという活動を充実させ気付かせる工夫をした。
○指導と評価
・ワークシートやアイデアスケッチなどを参考に，生徒が主体的に目標を実現できる手立てや生徒の実現状況を把握できるように工夫を行った。

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果
○表現と鑑賞の関連
・過去の作品の鑑賞と実際の制作から、題材を理解して表現する力が身に付いてきた。授業の最後に感想シートを用い本時の振り返りを行い，その反省を踏まえて次回の制作への意欲につなげることができた。また制作終了後に鑑賞の機会を設け，自分の制作意図を伝えるだけではなく，他者の作品に自分の見方や感じ方を大切にして意見や感想を述べることにより，作品を評価する力が身に付いた。
○主題生成能力の向上
・ワークシートを活用することで，自分自身の考えを整理し筋道を立てながら思考することができた。常にアイデアスケッチができる環境は生徒にとってのメリットがあり，些細なことでも簡単な言葉で書き留めたりスケッチしたりすることで主題生成の際の材料をより多くすることができた。
○感覚を働かせる取り組み
・生徒の内発的動機を高めることにより，視覚や触覚などの感覚を働かせて見つめたり，感じ取ったりすることなどが高まるようになった。また，写真と実物を比較して見つめることで新しい気付きを発見することができた。
○指導と評価
・生徒が主体的に活動に取り組み，目標が実現できるように，実際の活動を見て意欲や発想の高まりを見取り，指導することができた。また，制作途中の作品や完成作品と合わせてワークシートなどからも評価することで，適切な評価につながった。

（２）研究成果の意義等

今回の研究は，専門学科の授業としてだけではなく，美術Ⅰなどの芸術科の科目においての授業にも十分生かせるものと考える。材料や用具など準備物なども特別なものは使用していない。例えば，彫刻の題材においては，粘土を使用した短時間でのクロッキーなどや，絵画の題材においても感性を豊かに働かせるために，実物をしっかりと見つめさせることで気付きを促すことも可能である。美術，工芸は，学校や生徒の実態に応じて，生徒がより学びやすい題材を工夫することができることや，学習形態，時間配分などの創意工夫を柔軟に行うことができる。本研究が今後の授業改善に生かされればと考える。

（３）指定期間終了後の取組

今回の研究を踏まえ，題材と時間配分の精選と，指導と評価の一体化をさらに進めていく。また表現と鑑賞の相互効果の結果から，美術，工芸に対する価値を実感させ，思考力・判断力・表現力等がさらに高まるような過程を重視した指導の追求を続けて行きたい。